



## 2016 年新春寄語

# 「サステナビリティ」と「道」

あけましておめでとうございます。

皆さまには、輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。昨年は、各般にわたる格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

人類の活動が地球の「環境収容力」内で営まれているのか、それともすでに地球の能力を超過しているか、地球のサステナビリティについて、様々な論議が展開されています。

「サステナビリティ」(sustainability、持続可能性)という思想・概念は、人類社会の誕生、進化と発展に伴ってきたものと考えられます。古くは生態学範疇における林業(最大伐採可能:Maximum Allowable Cut)や漁業(最大維持可能漁獲:Maximum Sustainable Yield)の分野、または「天人合一」「道法自然」(天と人とは理を媒介にして一つながりだと考え、人と万物自然は調和と均衡、統一の中にあり、人間は最終的に自然の法則に従わなければならない)など東洋的哲学として用いられてきました。

「道」(どう・タオ・Tao・みち)とは、人や物が通るべきところであり、宇宙自然の普遍的法則や根元的実在、道徳的な規範、美や真実の根元などを広く意味する言葉です。老子によれば、「道」とは名付けることのできないものであり、礼や義などを超越した真理とされる。天地一切を包含する宇宙自然、万物の終始に関わる「道」を「天道」といい、人間世界に関わる「道」を「人道」という。これは、認識科学(あるものの探求)と設計科学(あるべきものの探求)に当てはめることができると考えます。

人類社会がサステナビリティを実現するための必要最小限の条件としてHerman Daly 3原則が挙げられます。①再生可能な資源の消費量<再生力、②非再生可能資源の消費量<再生可能資源開発力、③汚染物質排出量<環境吸収力。

ところで、「エコロジカル・フットプリント(EF: Ecological Footprint)」という地球の環境容量を表す指標(一人の人間が持続的な生活を営むために地球生態系に与える負荷の大きさを、資源の再生産および廃棄物の浄化に必要な土地・水域面積(gha/人:グローバルヘクタール)として示すもの)で評価してみると、人類の生活方式と生産活動は持続不可能であることがわかります。WWF(World Wide Fund for Nature)の「生きている地球レポート2012」(Living Planet Report 2012)によれば、2008年時点で、地球の生産可能な土地面積(生物生産力、Biocapacity)が1.78gha/人であるのに対し、EFは2.70gha/人(つまり地球1.52個分)を消費し、約52%オーバーシュート(需要過剰)しています。国別にみると、アメリカが地球4.04個分(EF7.19)、EUは2.65個分、日本は2.34個分を消費しているといわれています。言い換えれば、Herman Daly 3原則はもう満たすことができないといえるでし

よう。

ここでは、Global Sustainability を実現するための **RLES 4 原則**を提起します。

- R：循環（資源利用の最大化）
- L：低炭（環境負荷の最小化）
- E：生態（人と自然の調和）
- S：智慧（社会経済系統の最適化：コストの最小化、効用の最大化）

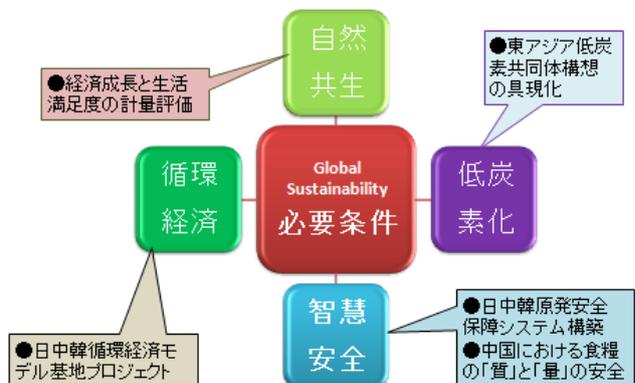
国際 3E 研究院は、2013 年に設立以来、エコ、循環、低炭素、スマートなどを中核内容とする「**日中韓循環経済モデル基地**」事業を共同研究、人材育成と産学連携の方面から推進してきました。この事業は、日中韓サミットにおいて提案された国際連携モデル事業でもあり、モデル基地の実施地は、大連・庄河市と指定されています。2016 年も引き続き、産官学研連携により同事業の推進に努めてまいりたい所存です。どうかご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

世界経済が目まぐるしく変動する現代、グリーン経済や気候変動等への対応の必要性が叫ばれています。COP21「パリ協定」においては、世界の平均気温の上昇を産業革命前から 2 度未満に抑える「2 度目標」とともに、島嶼国が強く求めていた「1.5 度」を目指して努力することを掲げました。排出量を早期に減少へと転じ、今世紀後半には、温室効果ガスの排出を「実質ゼロ」にすることも目指しています。

人法地、地法天、天法道、道法自然。老子の教えであります。

当研究院では、シンクタンク（think tank）のみならず、アクトタンク（act tank）として、国境を越えた広域低炭素社会を実現するために、下図の研究テーマに取り組んでいます。これからも微力ながら何事にも挑戦する気持ちで取り組み、一步一步前進してまいります。今後とも皆さまのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとって健やかで実り多い年となりますよう心よりご祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。



2016 年元旦  
一般社団法人国際 3E 研究院

代表理事

中島玲嘉

研究院長

周瑋生